

令和8年1月30日

芦屋市議会議長 中島 健一 様

議会運営委員長 寺前 尊文

議会運営委員会 行政視察報告書

本委員会は、下記のとおり行政視察を実施しましたので、報告します。

記

- 1 日 程 令和8年1月22日（木）～1月23日（金）
- 2 視察先及び
視察項目 オンラインによる一般質問、委員会運営等について
(東京都墨田区、茨城県取手市)
- 3 参加者 委員長 寺前 尊文
副委員長 川島 あゆみ
委員 川上 あさえ、西村 まさと
議員 中島 健一(議長)、田原 俊彦(副議長)、
橋本 隆
随 行 寺川 貴嗣(市議会事務局議事調査課)
市議会事務局 小川 智瑞子、本宮 健男
- 4 視察報告書 別紙のとおり

以 上

令和7年度 議会運営委員会 行政視察報告書

視 察 日 時	令和8年1月22日（木）13時30分 ～ 15時00分
視 察 先	東京都墨田区議会
視 察 内 容	オンラインによる一般質問、委員会運営等について
視 察 目 的 (視察先選定理由)	<p>総務省は令和2年4月及び令和5年2月、『新型コロナウイルス感染症対策等に係る地方公共団体における議会の委員会の開催方法について』などにより、オンラインによる一般質問及び委員会開催は「差し支えない」との見解を示した。これを受け、芦屋市議会でもオンラインを利用した議会開催について検討中である。</p> <p>全国でも先駆けて取組を進めた墨田区議会の取組を参考に、条例改正のあり方と運用方法、オンライン開催に対応した機器等の環境整備と導入コスト、運用面での課題と成果などを研究するため、視察先の議会の現場を実際に見て、芦屋市議会の今後の方針を見極めるために視察調査を行うもの。</p> <p>墨田区議会は、早稲田大学マニフェスト研究所の調査による『議会改革度ランキング』において近年、全国で上位、東京都23区に限れば1位に選出されるなど、議会改革に積極的に取り組む議会である。</p>
調 査 概 要	<p>◆オンラインによる委員会への参加</p> <p>【経緯】</p> <p>議会改革特別委員会の中で、1年かけて議論する予定だった。しかし、議会に感染者が発生して必要性を問う機運が高まり、委員会条例の改正の時期が早まった。</p> <p>【開催実績】</p> <p>これまでオンラインによる委員会への出席例は6回ある。例えば、シングルマザーの議員のこどもが感染症に罹患し、看護のためのこどもへの付き添いはやむを得ない事情があるとして認められた例がある。</p> <p>また、その際の通信環境は良好で、委員会の参加に支障はなかったように思われるが、オンライン参加では委員会の状況、雰囲気把握しにくいとの感想が寄せられた。</p> <p>◆オンラインによる一般質問</p> <p>【運営の流れ】</p> <p>オンラインによる一般質問の申出は当日9時まで。一般質問は原則午後1時から開催されるため、オンラインによる参加については午前11時30分から開催する議会運営委員会に諮問し、議長の許可を要する。</p> <p>一方、委員会へのオンラインによる参加は議会運営委員会への諮問は必要なく、所属の常任委員会の委員長の許可があれば可能となる。</p> <p>【運用指針】</p> <p>オンラインによる参加は、あくまで非常時においても<u>議員の発言権を保障することを目的</u>としており、<u>基本的には対面で議論することが望ましい</u>との考えで運営を行っている。</p>

	<p>◆字幕表示</p> <p>【運用の状況】</p> <p>『UDトーク』というアプリを導入、経費は年間約108万円。ただし、字幕表示に係る単独の経費ではなく、議場の映像配信システムに関わる経費も含んでいるため、字幕の導入による精緻なコストの算出はできていない。</p> <p>字幕は議場の傍聴席に設置されるモニターに表示される。インターネットのライブ中継に限り、本会議・委員会ともに字幕表示を行っている。</p> <p>字幕の誤変換は散見されるが、それによって混乱が生じたり、傍聴者から苦情があったことはない。</p> <p>◆その他の議会改革の取組</p> <p>墨田区議会では、区民の声を聴くことをコンセプトに議会改革に取り組み、特に「発信すること」に重点を置いてきた。また、議会改革特別委員会を15回にわたり開催し、平成30年に議会基本条例を制定した。</p> <p>以下、主な議会改革の取組を挙げる。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議事堂の外部での議会改革特別委員会の開催 ・議会主導によるパブリックコメントの実施 ・YouTubeでの映像配信を令和7年度から試行実施（ネット中継の録画放映） ・区民等との意見交換会の実施（町会・自治会、発達障害の子を持つ親の会、身体障がい者、子ども・子育て会議の委員、小学校PTA協議会、園児の保護者など） ・委員間討議の成果（学校給食室への空調設置が実現） ・通年議会（議会側からの政策提案を目指すもの。コロナ禍も専決処分はなし） ・議会事務局の提案権（全国初、事務局主導と議会主導の間を目指した提案権）
<p>所 感 (意見・感想・今後の課題等)</p>	<p>議会改革の一連の流れの中で、オンライン活用について説明をいただいた。コロナ禍がオンライン活用を加速させたのは全国的に同様だが、墨田区議会においても例外ではない。</p> <p>委員会条例等の改正に当たって、どのような場合にオンラインを介した会議参加を認めるかが検討課題となることが想定される。その点では、看護や介護が必要な場合も含めるかどうかの妥当性を議論する上で、墨田区議会の活用事例は参考となり得る。</p> <p>一般質問においては実施事例がなく、芦屋市議会と開催時間が異なるため、墨田区議会のように当日の朝まで申出を認めることは難しいと考えるが、議員の発言権を保障する面で柔軟な対応に努めていることが伝わった。オンラインを活用した一般質問、委員会参加はあくまでも非常時の次善の策であり、基本は議場において対面で行うものであるとの共通認識が見出せ、そのような考えの下での墨田区議会の取組は先進事例の模範に値すると感じた。</p> <p>その他、様々な議会改革の取組を教示いただいたが、過去に芦屋市議会でも熟議しながら採用に至らなかった通年議会や議員間討議にも取り組み、一定の成果が見られることはすばらしい。墨田区議会事務局の談によると「議長や議会改革特別委員会委員長が積極的にリードしている」とのことで、議会改革を牽引するキーパーソンの存在がいかに重要かも認識を新たにした。</p>

令和7年度 議会運営委員会 行政視察報告書

視 察 日 時	令和8年1月23日（金） 10時00分 ～ 11時30分
視 察 先	茨城県取手市議会
視 察 内 容	オンラインによる一般質問、委員会運営等について
視 察 目 的 (視察先選定理由)	<p>オンラインによる一般質問及び委員会開催において、全国でも先駆けて取組を進めた取手市議会の取組を参考に、委員会条例等の改正のあり方と運用方法、オンライン開催に対応した機器等の環境整備と導入コスト、運用面での課題と成果などを研究するため、視察先の議会の現場を実際に見て、芦屋市議会の今後の方針を見極めるために視察調査を行うもの。</p> <p>取手市議会は前日に視察した墨田区議会と同様、早稲田大学マニフェスト研究所の調査による『議会改革度ランキング』において全国1位に評価されるなど、議会改革のトップランナーとして有名である。</p>
調 査 概 要	<p>◆ICTの活用とオンラインによる会議運営に向けた取組</p> <p>取手市議会では一般質問や常任委員会審査のほか、タブレットによる採決システム、役員選挙の電子投票にもデバイスを活用している。なお、オンラインの一般質問を可能としているが、実績はない。</p> <p>【オンラインによる会議運営に至るまで】</p> <p>① 総務省からの通知（令和2年4月30日） オンライン委員会の開催は可能との見解が示される。</p> <p>② 総務省への要望活動（令和2年7月） 総務省へオンライン本会議の実現に向けた要望活動</p> <p>③ タブレットの導入（令和2年8月） 目的1 ペーパーレス化 目的2 採決システムの動作が不安定なため更新（Side Booksのシステムを活用）</p> <p>④ 新型コロナウイルスの蔓延 集まらなくても会議が開催できる方法はないか ⇒ 災害対策会議でZoomを活用</p> <p>⑤ 令和2年11月 初めてタブレットを用いたオンライン委員会（議会運営委員会）を開催</p> <p>◆オンライン委員会の運用上のルールとシステム整備</p> <p>① 完全オンライン会議ではない（ハイブリッド方式）</p> <p>② 会議にはZoomを使用 委員長は3台のタブレットを使って進行（次第書・議案書・Zoom画面の管理）</p> <p>③ 開催要件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害の発生、感染症の蔓延等、やむを得ない理由により委員会を開催する場所に委員を招集することが困難と認めるとき。 ・公務、疾病、看護、介護、出産、配偶者の出産補助、育児、忌引、災害その他や

むを得ない理由により委員会を開会する場所への参集が困難な委員からオンライン会議システムを活用した委員会の開会の求めがある場合

- ・委員長が特に必要と認める場合（例：10分程度の簡略な会議を想定）

④ オンラインでの参加希望の手続

- ・委員からオンラインでの参加希望の連絡（議運申合せで開会の1時間前まで）
- ・委員長へ連絡する。（→委員長がオンラインによる出席を許可）
- ・委員会開催前に、オンライン委員会になった旨を連絡する。
- ・開会の15分前までに事務局と議員で通信環境の確認を行う。

【システム・機材】

Z o o m管理用パソコン（25万円）

配信用パソコン（40万円）

家庭用ビデオカメラ（5万円）

360度配信用パソコン（49万円）

360度カメラ（15万円）

【議員へのサポート】

タブレットやZ o o m操作の研修実施、会議実施後のサポート、オンライン会議の申合せの作成

【オンライン会議の実績】

- ・オンライン委員会 令和2年6回 令和3年38回 令和4年17回 令和5年2回 令和6年4回 令和7年2回
 - ・オンライン会議（委員会含む） 令和2年40回 令和3年55回 令和4年41回 令和5年9回 令和6年12回 令和7年5回
- ※ コロナ禍を過ぎてからは機会が減少している

◆オンラインによる一般質問

令和4年4月 総務省、デジタル庁・自民党本部へ向けて要望活動を実施

令和5年6月 オンライン一般質問の制度化

許可するのは、感染症対策により参加できない場合のほか、やむを得ない事由により欠席・遅参・早退した議員を対象とする。会議規則の改正により可能となったが、現在まで実績はない。近隣のつくば市議会において感染症対策として実績がある。

「オンライン質問に関する申し合わせ」を作成し、ルールを定めた。

- ・会議開始1時間前までに議長へ申出
- ・質問時までZ o o mに入室していない場合は通告の効力を失う。
- ・通信が途絶えた場合は5分間を限度として質問を打ち切る。ただし、事務局側の機器不良による場合はこの限りでない。
- ・Z o o mの背景に使う画像は、ボカシのみを認めている。

◆字幕表示

Y o u T u b e にリアルタイムで表示する方式を試験的に採用。株式会社アドバンスト・メディアと提携して依頼している。言語の認識率は約9割であり、特に問題はない。令和7年度からは有料

<p>所 感 (意見・感想・ 今後の課題等)</p>	<p>取手市議会は全国に先駆け、オンラインによる議会開催へ向けて国に要望の声を上げた先駆者であり、行政視察は令和3年の議会BCP検討会議で行って以来2度目となる。今もなお、議会改革に向けたたゆまぬ努力を継続されていることが伝わるものであった。</p> <p>オンラインを使用した委員会運営の様子を画像で図示されたが、委員長が3台のタブレットを駆使して運営を行う様子は、機器の操作や柔軟な対応力など、委員長のファシリテーション能力が問われるように思えた。関係する機材では、ビデオカメラ、360度カメラなど新たな取組への挑戦意欲が伝わるものだったが、既存のタブレット機能を有効に活用すれば補えるものもあるのではないか。</p> <p>特筆すべきは、取手市議会のオンラインによる会議開催の実績は162回におよび、全国に類を見ない。そこから見出された課題と解決方法は、芦屋市議会で議論を進める上で有効な参考事例となる。会議の運用もハイブリッド方式を採用している点も、前日の墨田区議会と同様に、基本は対面で行う意義を尊重してのものと捉える。</p> <p>取手市議会が議会改革で先行する背景には改革意欲の高い事務局職員の存在があった点も墨田区議会と同様、旗振り役のリードオフマンの存在の意義を感じた。</p>
--	---

視察の様子（令和7年度 議会運営委員会）

視 察 先 ①

1 月 2 2 日
東 京 都 墨 田 区



東京都墨田区役所を訪
問しました。



墨田区議会議員及び事
務局の職員の方にご説
明いただきました。

視 察 先 ②

1 月 2 3 日
茨 城 県 取 手 市



取手市役所を訪問しま
した。



取手市議会事務局の方
にご説明いただきました。

※この「視察の様子」のページは市議会事務局職員が作成しています。